

## 古代ローマの遺産

## Europe



Historic Centre of Rome, the Properties of the Holy See in that City Enjoying Extraterritorial Rights and San Paolo Fuori le Mura

## ローマの歴史地区

イタリア共和国及びヴァチカン市国 文化遺産  
1980年登録 1990年範囲拡大 登録基準/(i)(ii)(iii)(iv)(vi)

## 長い歴史を伝える「永遠の都」

イタリア半島中部、首都ローマの歴史地区は、紀元前1～後3世紀のローマ帝国の遺構を中心とした、町の長い歴史を伝える遺跡や建造物が残る地域である。ウルバヌス8世が築いた市内の城壁の内側の地域が登録範囲となっている。このなかにはローマ発祥の地とされる**七つの丘**のほか、コロッセウム、パンテオンなどのよく知られる遺跡が含まれている。

歴史都市ローマは、約2,600年間にわたって、ローマ帝国の首都、キリスト教世界の中心地、ルネサンス以降は芸術、文化の発信地と地位を変えながらヨーロッパの歴史のなかで常に重要な役割を果たし、「永遠の都」または「都市のなかの都市」と呼ばれてきた。

伝説では、オオカミに育てられた双子の兄弟ロムルスとレムスのうち兄ロムルスが紀元前754年にパラティヌスの丘にローマを建てたとされている。ローマという都市名はロムルスに由来している。実際には、紀元前10世紀から前9世紀ごろ、この地には集落があったことが分かっており、紀元前8世紀ごろから七つの丘にラテン人が都市を築きはじめた。都市国家となったローマは、王によって統治されていたが、紀元前509年に王が追放され共和政となった。



ローマ帝国の中心だったフォロ・ロマーノ

次第に、周囲の国を支配下に入れると紀元前270年ごろには、イタリア半島全土を支配下に収め、北アフリカの**カルタゴ**との**ポエニ戦争**に勝利すると地中海の覇権を握った。

このような躍進のなかで国内では

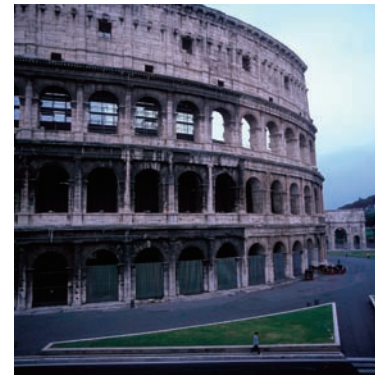
.....  
●七つの丘 パラティーン、エスクイリーノ、チェリオ、ヴィミナーレ、クイリナーレ、カピトリノ、アヴェンティーノの丘のこと。●カルタゴ 北アフリカ北岸のフェニキア人の植民市。●ポエニ戦争 ローマとカルタゴの間で前後3回行われた古代の大戦。

共和政での政治が限界を迎え、大規模な内乱が発生。この内乱を収めた将軍**カエサル**が権力を把握し、独裁政権を確立すると後を継いだ**アウグストゥス**が皇帝となり紀元前27年に帝政が始まる。後に続く皇帝たちは帝国の首都ローマに凱旋門や劇場、浴場、神殿、円形闘技場などを次々と建築し、現在も残る偉大な建造物群が立ち並ぶようになった。4世紀になると、それまで皇帝たちに迫害されていたキリスト教がコンスタンティヌス帝によって公認され、キリスト教文化が繁栄する。ローマは教皇の住まうカトリック教会の中心地へと姿を変え、かつて建てられた建造物のなかにキリスト教聖堂が加えられた。

ローマ帝国が東西に分裂すると、首都が**コンスタンティノープル**に移されローマの繁栄にも陰りが見えてきた。ローマを支配下に置いていた西ローマ帝国は、476年に滅亡。ローマも異民族の略奪を受けた。6世紀半ば、ビザンツ（東ローマ）帝国に奪還されると、政治的には単なる一都市となってしまった。

8世紀以降、ローマはキリスト教権力の中心として、教皇領の首都となる。衰退期の後、15世紀後半から16世紀には、強力な教皇たちが現れ、ローマは芸術の都として花開いた。ミケランジェロやラファエロらの優れた芸術家が活躍し、ルネサンス様式の広場や建築が数多くつくられたのである。勢いを取り戻したローマだったが、教皇の力は次第に衰え、ヴァチカン市国に封じられてしまう。再びローマが政治的中心に返り咲いたのは1870年、イタリア再統一後に首都となってからのことだった。

長い繁栄のなかで残されてきた遺跡が、現在もローマの市街には数多く残



コロッセウム



パンテオン

.....  
●カエサル 前100～前44 ローマの将軍。●アウグストゥス 前63～後14 ローマ帝国の初代皇帝。●コンスタンティノープル ボスボラス海峡を挟んでアジアとヨーロッパ両大陸にまたがる都市。現イスタンブル。